

# 挑戦の150年

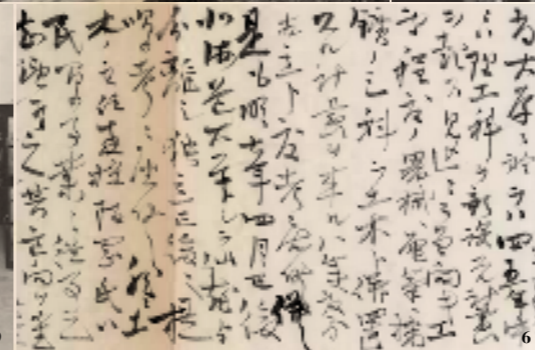
SCENE-21

## 1917-1925

### 「工学部の開設」



1. 吉町太郎一工学部長 (1932年ころ)
2. 東北帝国大学農科大学土木工学科測量実習 (1910年前後)
3. 上空から見た工学部本館 (1926年ころ)
4. ロンドン・テムズ川に集った工学部教授予定者 (1924年)
5. 竣工間もない工学部本館 (1924年ころ)
6. 1917年9月4日付け川江秀雄宛て佐藤昌介書簡の一部
7. 札幌農学校卒業時の川江秀雄 (1895年)
8. 工学部の一般公開 (1926年)
9. 工学部土木機械実習風景 (1927年ころ)
10. 工学部前の初代工学部長吉町太郎一先生像 (2014年撮影)



### 佐藤昌介学長の皮算用

医科大学（後の医学部）開設に当たっては、北海道帝国大学を独立・設置するという動きと連動していたこともあり、実現には地域の粘り強い運動と時間が必要であった。国庫に負担を及ぼさない寄附金による医科大学開設が閣議決定されたのは一九一六年九月である。その後早くも、東北帝国大学農科大学長佐藤昌介は、次の分科大学（学部）増設の皮算用を始める。

札幌農学校には一八八七年から九年間、農学科と共に工学科が存在し、十六名の工学士を送り出していた。一八九六年に工学科が廃止となると、翌一八九七年に中等実業教育機関として、土木技術を教授する土木工学科を新設した（一九〇二年からは中学校卒業を入学資格とする専門学校段階に引き上げられる）。土木工学科主任の教授は川江秀雄（工学科第五期生、一八九五年卒業、次いで坂岡末太郎（工学科第四期生、一八九四年卒業）が務めていた。

一九一七年九月、佐藤昌介学長は、娘婿でもあり、土木工学科の前主任であった川江秀雄に宛てた手紙で、①四、五年中に理工科大学（理工学部）の新設計画を立ち上げる見込みであること、②先ず既存の土木工学科に器械・電気・採鉱の三科を併置して、一九一八年四月に北海道帝国大学が独立・開学した後に、分科大学に格上げする提唱をすること、③土木工学科主任坂岡末太郎教授が民間事業に従事する意向を示しているため、後任として再度土木工学科主任に着くつもりはないか、といった内容を伝えた。佐藤学長は、土木工学科を拡張した上で、それを母体に理工科大学設置を図る見取り

（橋梁学）が工学部創設委員となった。委員長は寺野、後に加茂が務めるが、創設準備の中心となったのは吉町であった。吉町は、委員任命後、一九二一年八月に北海道帝国大学を訪れ工学部予定地を視察したときの様子を、「当時の現場は医学部敷地際からたらだら降りになった湿地でありまして、牧草深く茂った間を一条の廃渠が南北に走って居りました。楡の老樹は諸所に点在し、ポプラの並木もあつた様に記憶します。ここに旗竿を立てて、成るべく樹木に障らぬ様にと、地割して見たのであります」と回想している。この場所に、後に「白聖館」と呼ばれる美しい工学部本館を建設し、一九六〇年代に建て替えた現在の工学部建物も所在している。

### 教室制度、科目の自由撰択

一九二三年五月、吉町に対し北海道帝国大学教授兼任とする発令があり、吉町は欧

だらよいかは仲々解らないから出来るだけ其れを指導して例えば鉄道方面に進むにはよって出来るだけ自由に勉強さしたい」（吉町太郎一談、1924年7月26日付け『北海タイムス』）

「大学に這入ったばかりの学生にどんな科目を選んだらよいかは仲々解らないから出来るだけ其れを指導して例えば鉄道方面に進むにはよって出来るだけ自由に勉強さしたい」（吉町太郎一談、1924年7月26日付け『北海タイムス』）

図を描き、その中心に川江秀雄を据えようと考へてきた。川江は、土木工学科教授を辞めた後、朝鮮総督府鉄道局技師を経て、このときは満鉄（南満州鉄道株式会社）の京城管理局工務課長を務めていた。この後の川江宛て佐藤昌介の内容から、川江は佐藤の誘いを断つたようである。一方、坂岡は一八九一年に北海道帝国大学が開学し、土木工学科が附属土木専門部へと改組した後も主事・教授を務め、一九二三年九月に逝去するまでその地位にあった。

### 工学部設置の動き

佐藤昌介の思惑通りには運ばなかったが、学部増設の動きは急転する。一九一九年三月、原敬内閣が帝国議会に提出した「高等諸学校創設及拡張費支弁ニ関スル法律案」が通過し、一九一九年からの五年間に、帝国大学に四学部、官立高等学校を十校、高等専門学校を十九校新設し、六校の高等専門部を単科大学に昇格させ、帝国大学の既存六学部を拡張するという内容であった。このうち、帝国大学四学部新設の計画には、北海道帝国大学工学部の開設が含まれていた。全国的な高等教育機関拡充計画の一環であるため、工学部開設には当初から国庫支出も予定され、医科大学開設の経緯とは好対照であった。

一九二二年、東京帝国大学工学部長寺野精一（船舶工学、同教授の鳳秀太郎（電気工学）、柴田睦作（土木工学）、加茂政雄（機械工学）、船橋了助（採鉱学）、井上匡四郎（採鉱学、同時期に教授を辞任、後に鉄道大臣）、九州帝国大学工学部長の吉町太郎一

米を視察した。一九二四年九月、北海道帝国大学工学部を設置する勅令が出、吉町は北海道帝国大学の専任となり、初代工学部長に就任した。工学部は専門分野を大括りにする教室制度を採用し、土木工学・電気工学・機械工学・鉱山工学の四教室に、橋梁学・鉄道学・水工学・電気機械学・原動機学・鉱山学の六講座が所属する体制で発足して、各講座に教授が着任した。設置の少し前、吉町は『北海タイムス』の取材に応え、工学部の教育方針として「今迄の様式を幾分改革し、学生が成るだけ自由科目を選択できる様にした」と述べている。専攻分野によって受講する科目を決めようというのではなく、学生の自主的な科目選択を可能とする方針である。欧米視察の成果、東京帝大の改革、九州帝大での経験を勘案した試みであった。

一九二五年四月、予科などから九十二名の第一期生が入学し、工学部の講義が始まった。

**Hokkaido University HISTORY**  
1917-1925

1917年	9月	- 佐藤昌介東北帝国大学農科大学長が理工科大学創設計画を川江秀雄に伝える
1918年	4月1日	北海道帝国大学設置、土木工学科が附属土木専門部に改組
1919年	2月	原敬内閣が「高等諸学校創設及拡張費支弁ニ関スル法律案」を帝国議会に提出
	3月	帝国議会が法律案を通過させ、北海道帝国大学工学部の設置を承認
1921年	8月	吉町太郎一（九州帝国大学工学部長）らが工学部創立委員となり、札幌で初代会合
1922年	4月	工学部に進学する予科生120名を増募
1923年	5月	吉町太郎一が北海道帝国大学教授を兼任
	12月	工学部本館（白聖館）竣工
1924年	5月	工学部教授候補者がロンドン郊外で开会
	9月	工学部設置、吉町太郎一工学部長就任
1925年	4月	工学部第一期生92名入学、授業開始

**大学文書館** だいがくぶんしょかん Hokkaido University Archives

北海道大学に関する歴史的な資料を収集・整理・保存して利用に供するとともに、北海道大学史に関する調査・研究を行っている。